

平成 24 年度学習指導要領実施状況調査 教科等別分析と改善点 (小学校 特別活動 (質問紙調査))

1. 今回の調査結果の特色

(1) 質問紙調査結果の概要

- 平成 20 年 1 月の中央教育審議会の答申における特別活動の改善の基本方針として「よりよい人間関係を築く力の育成」、「社会に参画する態度や自治的能力の育成」、「道徳的実践の指導の充実」が掲げられた。改善の基本方針に関連する質問については以下のとおりである。
 - ・ 特別活動の目標に関して、特に「よりよい人間関係を築く力の育成」に関連する質問（「みんなで話し合って、なかよく楽しい学級にしている」など）については、肯定的な回答の割合が、児童及び教師質問紙調査の両方とも約 9 割である。
 - ・ 「社会に参画する態度や自治的能力の育成」については、肯定的な回答の割合が、児童及び教師質問紙調査の両方とも約 6 割から約 8 割である。
 - ・ 「自主的、自発的な活動の一層の重視」について、児童質問紙調査における肯定的な回答の割合は約 7 割から約 9 割であるが、教師質問紙調査では、肯定的な回答の割合が約 5 割から約 7 割と児童質問紙調査に比べて低くなっている。特に、「自治的能力」に関連する質問に対して、肯定的な回答の割合がほかの質問に比べ低くなっている。児童の自発的、自治的な活動を助長する指導に当たっては、「教師の適切な指導」の重要性を理解するとともに、発達の段階により参画の仕方・役割などが変化することに配慮した指導などの工夫が大切である。
 - ・ 「道徳との関連」に関連する教師への質問に対して、否定的な回答の割合が約 3 割となっている。特別活動の特質を十分に踏まえた上で、学校の道徳教育の重点内容項目に関わる各活動や学校行事の目標や内容を意識して指導するなど、道徳的実践のための重要な学習活動の場として特別活動の指導の充実が必要である。
- 学級活動(2)の共通事項の「エ 清掃などの当番活動等の働くことの意義の理解」に関連する質問については、肯定的な回答の割合が、児童及び教師質問紙調査の両方とも約 8 割である。
- 児童質問紙調査の項目間の関連を分析した結果、学級に関わる質問と今回の改訂で新設された事項に関する質問との相関を見ると、「生活や学習の目標設定と実行」と「活動の振り返り」には、高い相関が見られる。このことから、目標の設定・実践・振り返り・改善という活動のサイクルを意識した指導が行われていると考えられる。
- 「よりよい学級生活や人間関係づくり」に関連する質問項目について、教師質問紙調査において、肯定的な回答をしている教師の学級の児童は、児童質問紙調査において、肯定的な回答の割合が高い場合が多く、教師の認識している学級の実態と児童の回答に関連があると考えられる。
- 特別活動に関する児童質問紙調査に肯定的な回答をしている児童が多い学級ほど、ペーパーテスト調査において平均正答率が高い傾向が見られる。また、教師質問紙調査に肯定的な回答をしている教師の指導を受けている学級ほど、ペーパーテスト調査においても同様の傾向が見られる。このことから、特別活動を通じたよりよい生活や人間関係づくりは、受容的な雰囲気や学校生活への目標を達成しようとする意欲や態度を醸成し、学力と相互に関係していると考えられる。

(2) 質問紙調査結果の主な特色

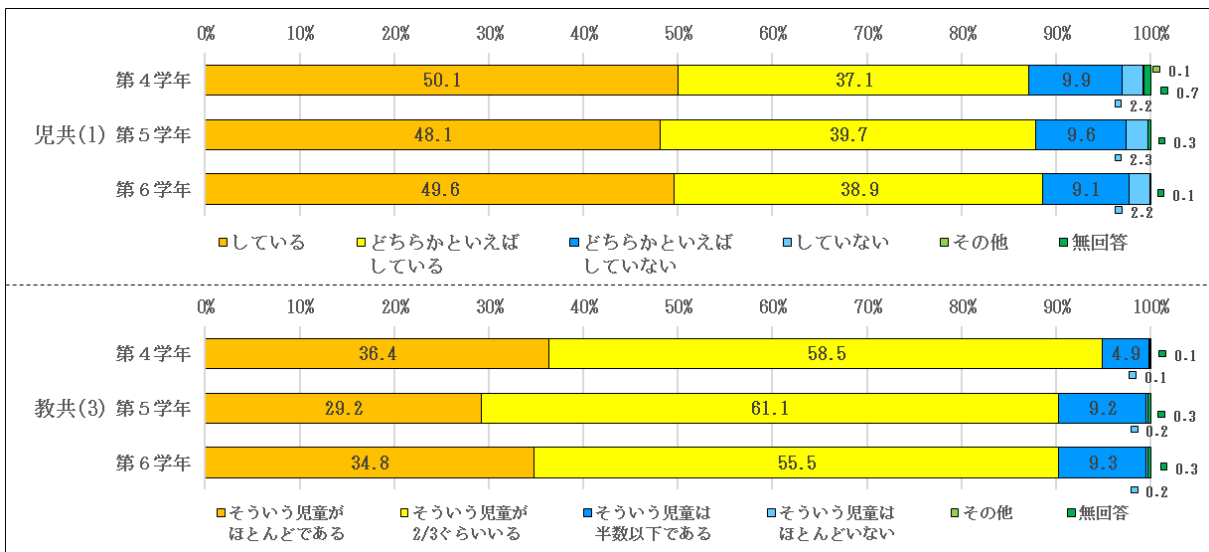
① 今回の改訂の基本的な考え方に関する事項、各教科等の主な改善事項に関する質問

- 平成 20 年 1 月の中央教育審議会の答申における特別活動の改善の基本方針として「よりよい人間関係を築く力の育成」、「社会に参画する態度や自治的能力の育成」、「道徳的実践の指導の充実」が掲げられた。改善の基本方針に関連する質問については以下のとおりである。

ア よりよい人間関係を築く力の育成

児共(1):みんなで話し合って、なかよく楽しい学級にしている
 教共(3):児童は、協力してよりよい学級生活や人間関係を築いていますか

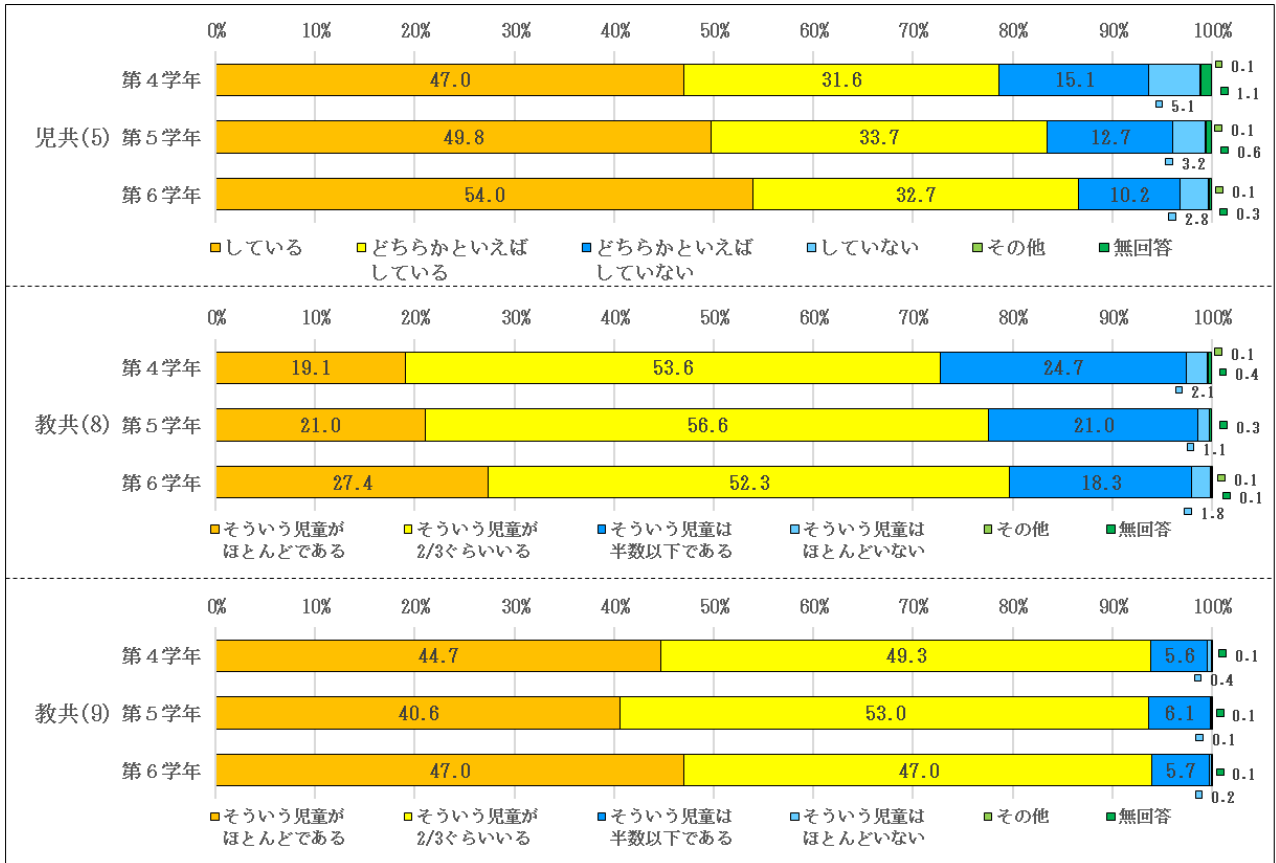
※ 児共(1)は、問題番号である児童質問紙調査(共通)大問3(1)を略して示したものである。また、教共(3)は、教師質問紙調査(共通)大問4(3)を略して示したものである。本文中では質問内容も含め、児共(1)、教共(3)と示している(以下、同様)。



(図1)

- 今回の学習指導要領改訂において、「学級活動の改善」として示された「よりよい人間関係を築き、楽しい生活をつくる」ことに関連する質問である、児共(1)において、「している」、「どちらかといえばしている」という肯定的な回答の割合は約9割である。また、同じ関連の質問である、教共(3)において、「そういう児童がほとんどである」、「そういう児童が2/3ぐらいいる」という肯定的な回答の割合も約9割である。(図1)

児共(5):児童会活動やクラブ活動, 学校行事で, 他の学年の人と協力し合って実行している
 教共(8):児童はよりよい児童会活動やクラブ活動にするために, 自分たちで計画し, 他の学年の児童と協力して活動していますか
 教共(9):児童は, 学校行事に進んで参加し, 自分の役割を果たしたり, 他の児童と協力して活動したりしていますか



(図2)

- 「児童会活動及びクラブ活動の改善」として小学校学習指導要領解説特別活動編(平成20年度)に示された「異年齢の人間関係を築く」ことや「協力する」とことと関連する質問である, 児共(5)において, 「している」, 「どちらかといえばしている」という肯定的な回答の割合は7割5分以上である。また, 同じ関連の質問である, 教共(8)において, 「そういう児童がほとんどである」, 「そういう児童が2/3ぐらいいる」という肯定的な回答の割合は, 7割以上である。(図2)
- 「学校行事の改善」として小学校学習指導要領解説特別活動編(平成20年度)に示された「よりよい人間関係を築く」とことと関連する質問である, 教共(9)において, 「そういう児童がほとんどである」, 「そういう児童が2/3ぐらいいる」という肯定的な回答の割合は9割以上である。(図2)
- 児童会活動やクラブ活動よりも学校行事の方が, 児童の活動状況について肯定的な回答の割合が高いと言える。

イ 社会に参画する態度や自治的能力の育成

児共(2):学級会で、よい学級や友だち関係をつくるため、学級としての目標や方法を決め、実行している

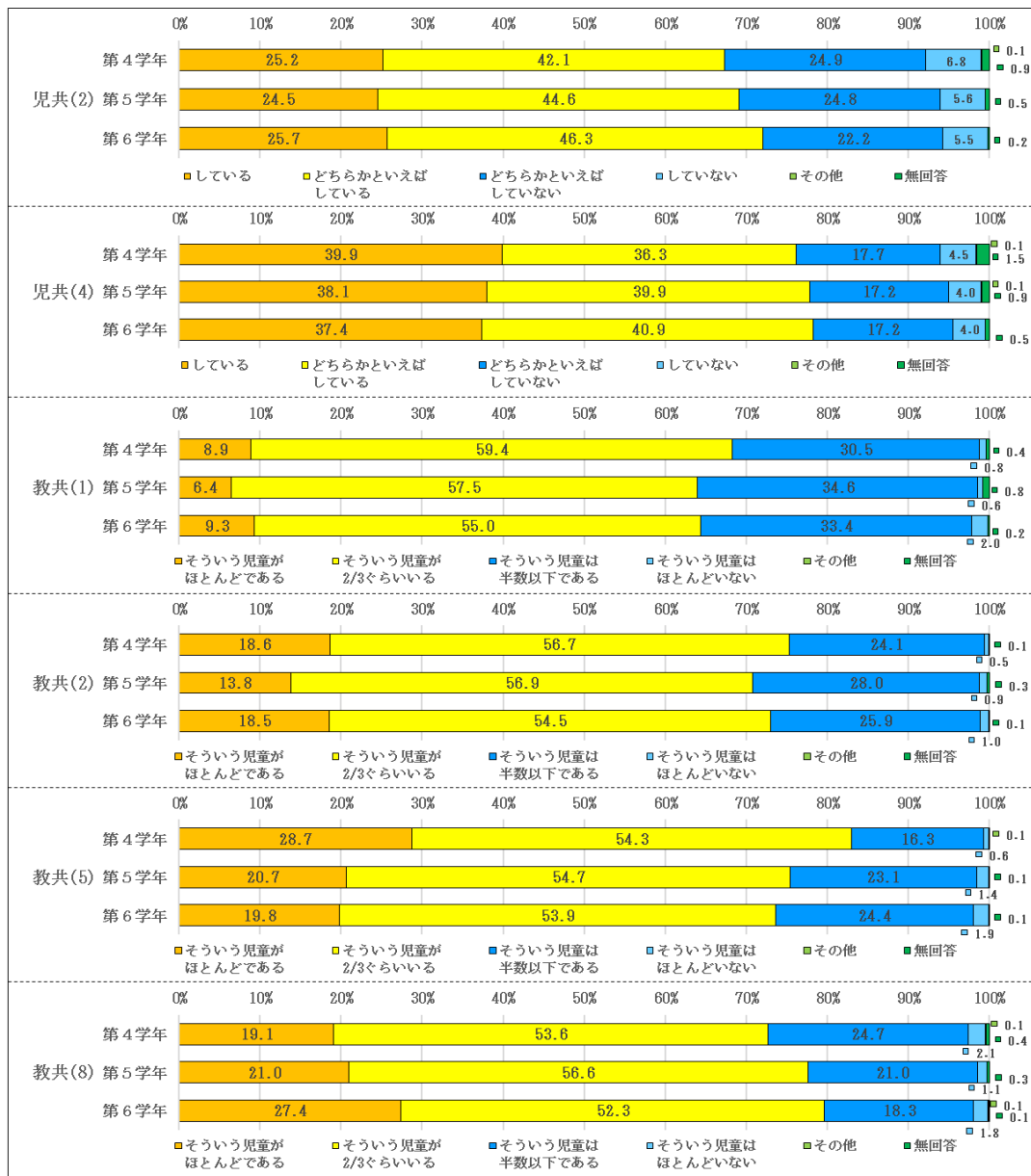
児共(4):係活動で、学級に役立つことを工夫し、協力し合って実行している

教共(1):児童は、学級生活向上のための問題を見付けられていますか

教共(2):児童は、学級会の進め方を理解して、話し合いができていますか

教共(5):児童は、自分で創意工夫できる係活動を決め、他の児童と協力し合って活動していますか

教共(8):児童はよりよい児童会活動やクラブ活動にするために、自分たちで計画し、他の学年の児童と協力して活動していますか

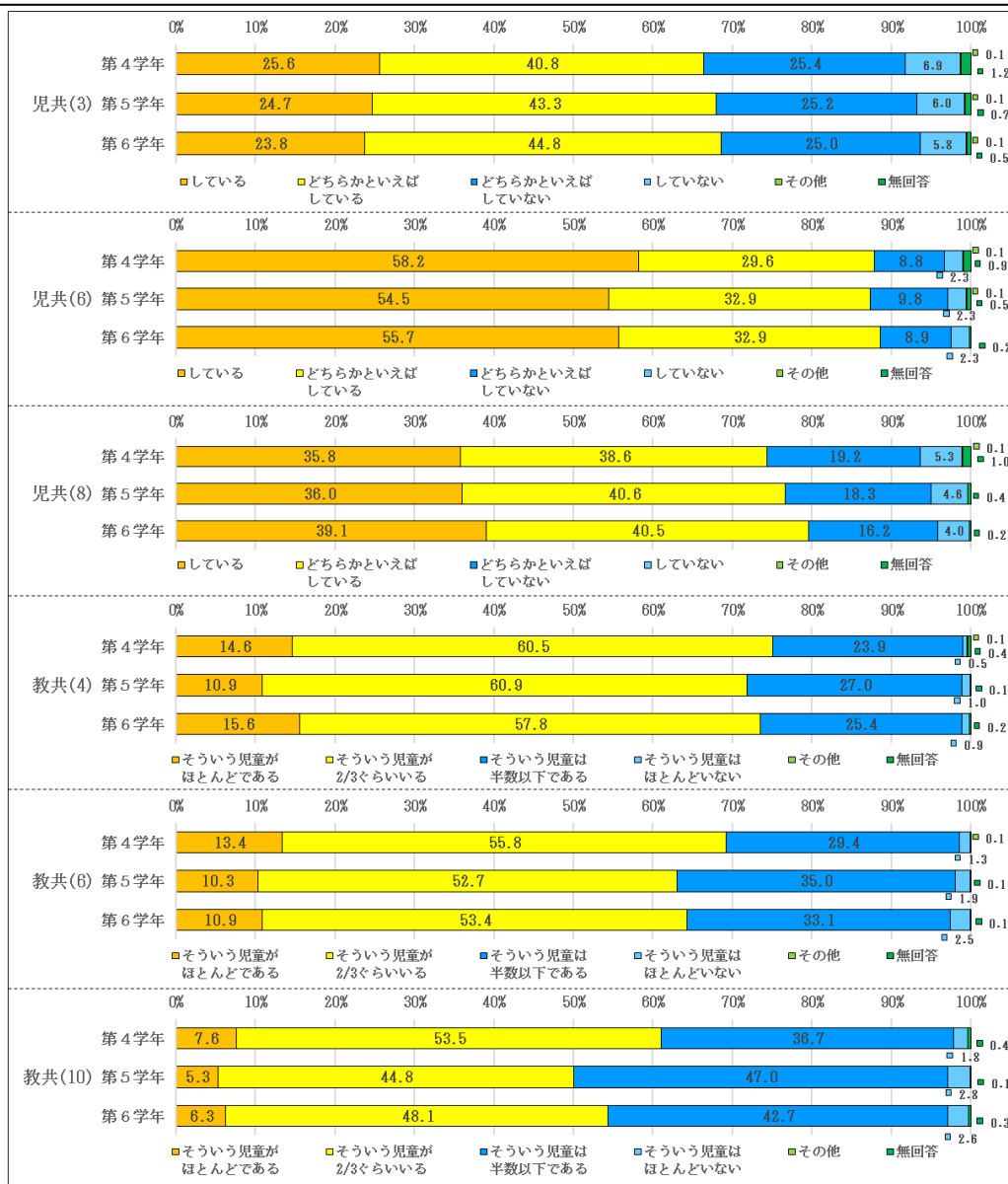


(図3)

- 「社会に参画する態度や自治的能力の育成」に関連する質問である、児共(2)や児共(4)において、「している」、「どちらかといえばしている」という肯定的な回答の割合は約7割から約8割である。また、同じ関連の質問である、教共(1)、

教共(2), 教共(5), 教共(8)において, 「そういう児童がほとんどである」, 「そういう児童が2/3ぐらいいる」という肯定的な回答の割合は約6割から約8割である。(図3)

児共(3):学級活動で, 自分の生活や学習の目標や方法を決め, 実行している
 児共(6):自分の健康や安全について努力することを決めて, 生活をしたり給食を食べたりしている
 児共(8):学級活動, 児童会活動, クラブ活動や学校行事で自分から楽しい学級や学校の生活をつくらうとしている
 教共(4):児童は, 日常生活や学習に取り組む目標を自分で決め, 実行していますか
 教共(6):児童は, 自分の健康・安全, 食などについて関心を持ち, よりよく改善するための方法を決めて努力していますか
 教共(10):児童は, 指示待ちではなく, 自分たちでよりよい学級生活を築いていますか



(図4)

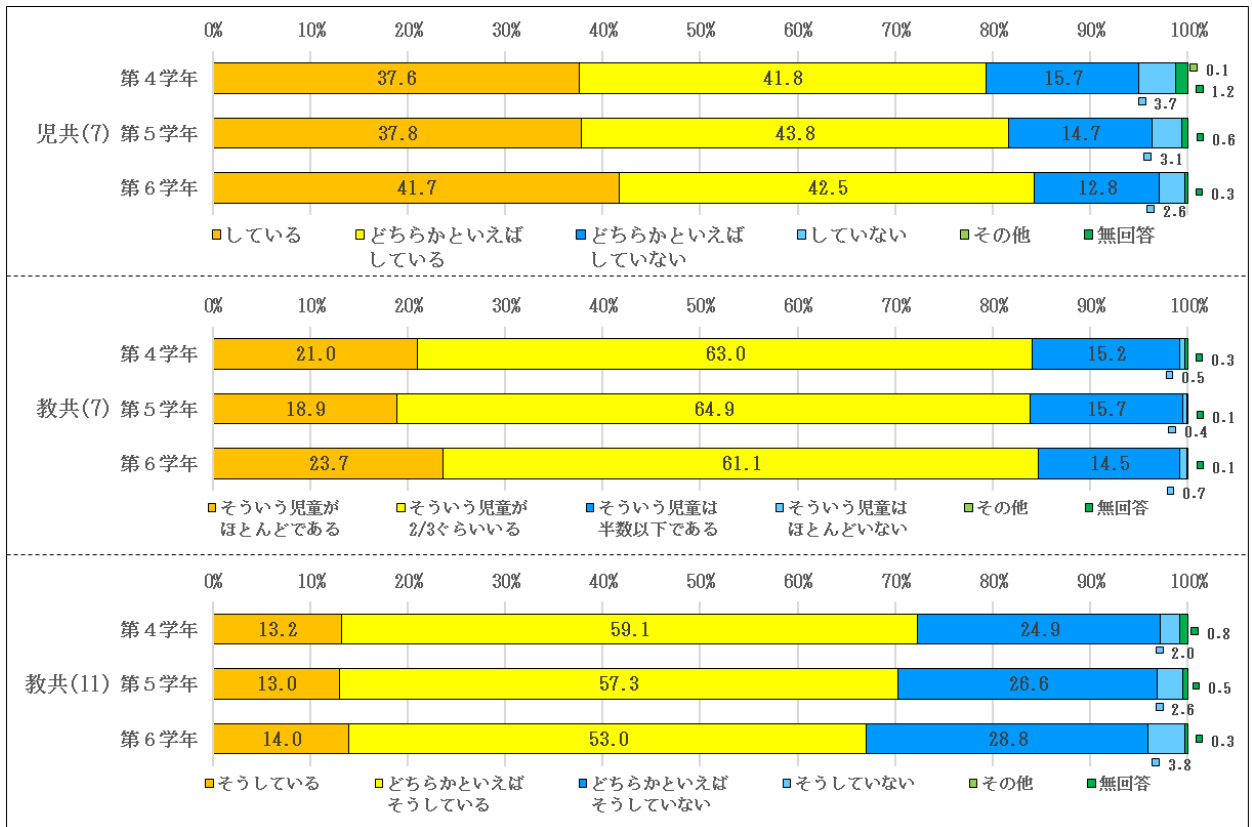
○ 「自主的, 自発的な活動の一層の重視」に関連する質問である, 児共(3), 児共(6), 児共(8)において, 「している」, 「どちらかといえばしている」という肯定的

な回答の割合は約7割から約9割である。(図4)

- 一方、同じ関連の質問である、教共(4)、教共(6)、教共(10)において、「そういう児童がほとんどである」、「そういう児童が2/3ぐらいいる」という肯定的な回答の割合は約5割から約7割である。特に、「自治的能力」に関連する質問である、教共(10)では、「そういう児童がほとんどである」、「そういう児童が2/3ぐらいいる」という肯定的な回答の割合がほかの質問に比べ低くなっている。(図4)
児童の自発的、自治的な活動を助長する指導に当たっては、「教師の適切な指導」の重要性を理解するとともに、発達の段階により参画の仕方・役割などが変化することに配慮した指導などの工夫が大切である。

ウ 道徳的実践の指導の充実

児共(7):自分の活動をふり返って、思いやりや協力、はたらくことや責任を果たすことの大切さなどを感じている
 教共(7):児童は、特別活動でしたことなどを振り返って、思いやりや協力、働くことや責任を果たすことの大切さについて実感し、努力することができていますか
 教共(11):特別活動と道徳との関連を図った授業や活動を行っていますか



(図5)

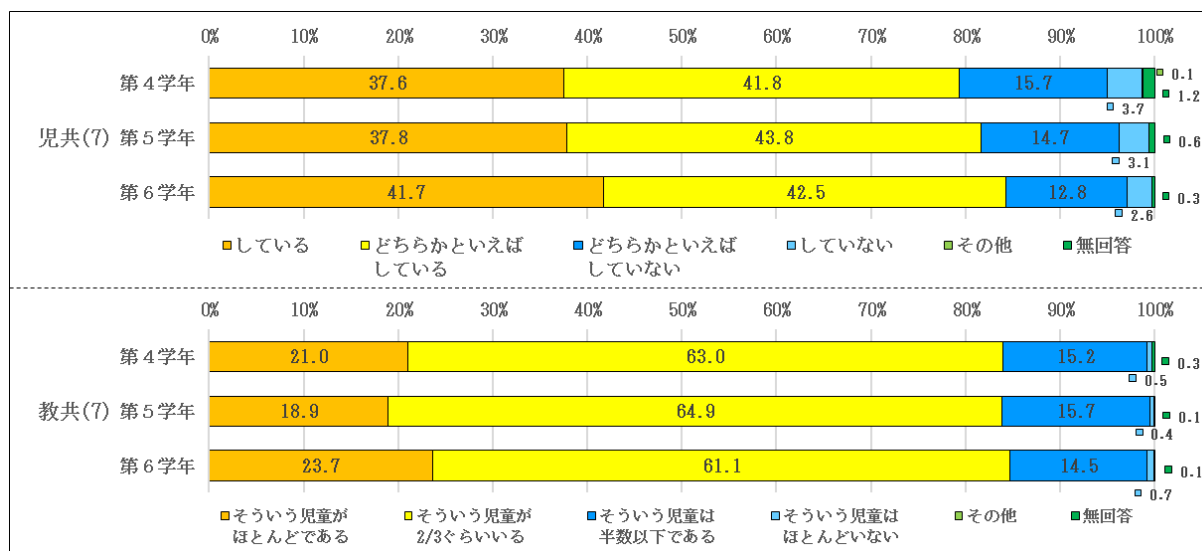
- 「自分の活動を振り返る」、「思いやりや協力、働くことや責任を果たすことの大切さ」に関連する質問である、児共(7)において、「している」、「どちらかといえばしている」という肯定的な回答の割合は約8割である。また、同じ関連の質問である、教共(7)において、「そういう児童がほとんどである」、「そういう児童が2/3ぐらいいる」という肯定的な回答の割合は8割以上である。(図5)

- 一方、「道徳との関連」に関連する質問である，教共(11)において，「そうしていない」，「どちらかといえばそうしていない」という否定的な回答の割合が約3割となっている。(図5)
- 特別活動の特質を十分に踏まえた上で，各活動や学校行事の目標や内容に含まれる道徳的価値を意識して指導するなど，道徳的実践のための重要な学習活動の場として特別活動の指導の充実が必要である。

② 今回の改訂で新設された事項

ア 学級活動(2)「エ 清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解」に関して

児共(7):自分の活動をふり返って，思いやりや協力，はたらくことや責任を果たすことの大切さなどを感じている
 教共(7):児童は，特別活動でしたことなどを振り返って，思いやりや協力，働くことや責任を果たすことの大切さについて実感し，努力することができていますか



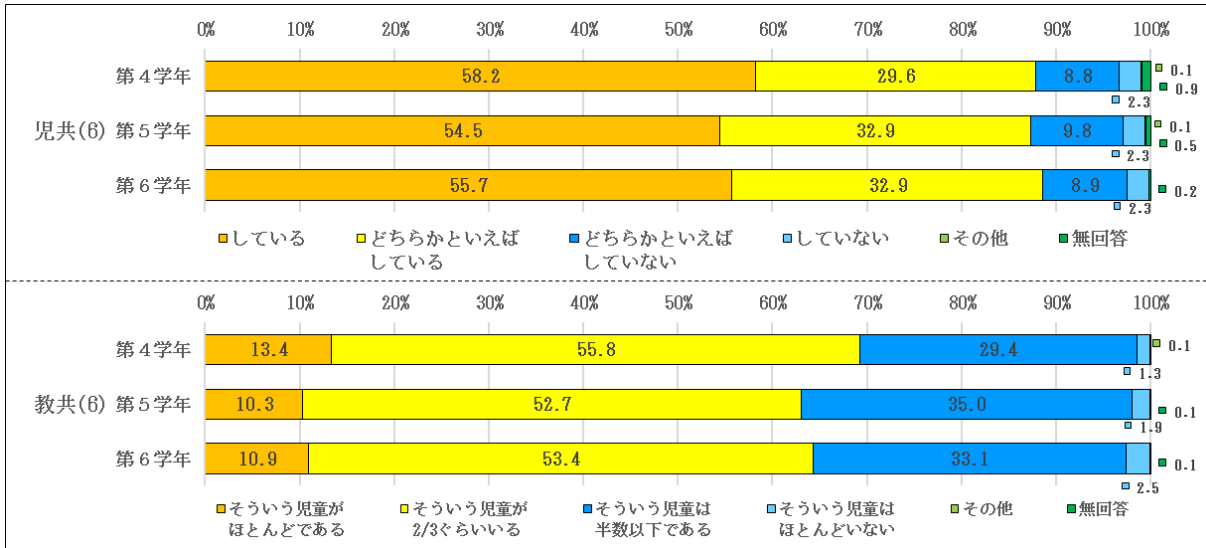
(図6)

- 学級活動(2)の共通事項に新たに加えた「エ 清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解」に関連する質問である，児共(7)において，「している」，「どちらかといえばしている」という肯定的な回答の割合は約8割である。また，同じ関連の質問である，教共(7)において，「そういう児童がほとんどである」，「そういう児童が2/3ぐらいいる」という肯定的な回答の割合は8割以上である。(図6)

イ 学級活動（２）「カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成」, 「キ 食育の観点
点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」に関して

児共(6):自分の健康や安全について努力することを決めて、生活をしたり給食を食べたりしている

教共(6):児童は、自分の健康・安全、食などについて関心をもち、よりよく改善するための方法を決めて努力していますか



(図7)

○ 学級活動（２）の共通事項の「カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成」, 「キ 食育の観点
点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」に関連する質問である、児共(6)において、「している」, 「どちらかといえばしている」という肯定的な回答の割合は約9割である。また、同じ関連の質問である、教共(6)において、「そういう児童がほとんどである」, 「そういう児童が2/3ぐらいいる」という肯定的な回答の割合は約6割から約7割である。これらのことから、児童の回答と教師による児童の状態についての認識に差異が見られるため、養護教諭や栄養教諭と連携した指導や各教科等と関連を図るなど意図的、計画的な指導を充実させる必要がある。(図7)

③ 項目間に着目した分析の結果

- 児童質問紙調査の項目間の相関（関係の強さ）を見た場合、ほとんどの項目において相関係数は 0.300 以上であり，統計的に有意な関係が見られている。学習指導要領で充実するよう求められている「内容相互の関連」を図った指導や取組を引き続き行っていくことが重要である。

〈表 1 児童質問紙調査共通質問 3 の各項目間の相関係数（第 4 学年）〉

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
(1)	-	-	-	-	-	-	-	-
(2)	0.477	-	-	-	-	-	-	-
(3)	0.398	0.559	-	-	-	-	-	-
(4)	0.385	0.445	0.461	-	-	-	-	-
(5)	0.367	0.380	0.381	0.406	-	-	-	-
(6)	0.311	0.294	0.329	0.304	0.300	-	-	-
(7)	0.368	0.400	0.430	0.399	0.338	0.363	-	-
(8)	0.430	0.450	0.439	0.409	0.409	0.336	0.445	-

- (1) みんなで話し合っ、なかよく楽しい学級にしている
 (2) 学級会で、よい学級や友だち関係をつくるため、学級としての目標や方法を決め、実行している
 (3) 学級活動で、自分の生活や学習の目標や方法を決め、実行している

〈表 2 児童質問紙調査共通質問 3 の各項目間の相関係数（第 5 学年）〉

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
(1)	-	-	-	-	-	-	-	-
(2)	0.490	-	-	-	-	-	-	-
(3)	0.382	0.556	-	-	-	-	-	-
(4)	0.380	0.442	0.460	-	-	-	-	-
(5)	0.374	0.383	0.381	0.423	-	-	-	-
(6)	0.297	0.296	0.323	0.313	0.315	-	-	-
(7)	0.360	0.391	0.425	0.399	0.355	0.365	-	-
(8)	0.451	0.457	0.435	0.411	0.422	0.332	0.451	-

- (4) 係活動で、学級に役立つことを工夫し、協力し合って実行している
 (5) 児童会活動やクラブ活動、学校行事で、他の学年の人と協力し合って実行している
 (6) 自分の健康や安全について努力することを決めて、生活をしたり給食を食べたりしている

〈表 3 児童質問紙調査共通質問 3 の各項目間の相関係数（第 6 学年）〉

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
(1)	-	-	-	-	-	-	-	-
(2)	0.510	-	-	-	-	-	-	-
(3)	0.397	0.573	-	-	-	-	-	-
(4)	0.392	0.440	0.475	-	-	-	-	-
(5)	0.381	0.378	0.380	0.426	-	-	-	-
(6)	0.309	0.313	0.339	0.317	0.347	-	-	-
(7)	0.359	0.394	0.427	0.395	0.378	0.373	-	-
(8)	0.454	0.457	0.440	0.423	0.440	0.343	0.457	-

- (7) 自分の活動をふり返って、思いやりや協力、はたらくことや責任を果たすことの大切さなどを感じている
 (8) 学級活動、児童会活動、クラブ活動や学校行事で自分から楽しい学級や学校の生活をつくらうとしている

※塗りつぶしている箇所は相関係数が 0.400 以上の項目を表す。

- 相関係数 0.400 以上の項目間の関連に着目した場合、次の二つの結果が明らかになった。

第一に、児共(8)と、ほかの多くの項目に高い相関が見られる。自主的、実践的な態度を育てるための指導や取組を引き続き重視することが大切である。

第二に、学級に関わる質問と今回の改訂で新設された事項に関する質問との相関を見ると、児共(3)と児共(7)に高い相関が見られる。このことから、望ましい集団活動の条件である「生活や学習の目標設定と実行」と「活動の振り返り」には深いつながりがあり、引き続き目標の設定・実践・振り返り・改善という活動のサイクルを意識した指導を行うことが重要である。

- 児童質問紙調査と教師質問紙調査の項目間の関連を分析したクロス集計では、「よりよい学級生活や人間関係づくり」に係る表4の項目において、「そういう児童がほとんどである」、「そういう児童が2／3ぐらいいる」という肯定的な回答をした教師の指導を受けている学級の児童は、「している」、「どちらかといえばしている」という肯定的な回答の割合が高く、教師が認識している学級の実態と児童の回答には関連があることがうかがわれる。

〈表4 教師質問紙調査と児童質問紙調査のクロス集計表〉

教共(3)と児共(1)のクロス集計結果		第4学年		第5学年		第6学年	
		肯定(%)	否定(%)	肯定(%)	否定(%)	肯定(%)	否定(%)
教師	肯定的な回答(%)	87.6	11.7	88.9	10.8	89.3	10.5
	否定的な回答(%)	79.7	18.8	77.4	21.8	79.3	20.5
教共(5)と児共(4)のクロス集計結果		第4学年		第5学年		第6学年	
		肯定(%)	否定(%)	肯定(%)	否定(%)	肯定(%)	否定(%)
教師	肯定的な回答(%)	77.0	21.5	79.1	20.0	79.9	19.6
	否定的な回答(%)	72.4	26.0	74.5	24.6	73.8	25.7
教共(2)と児共(2)のクロス集計結果		第4学年		第5学年		第6学年	
		肯定(%)	否定(%)	肯定(%)	否定(%)	肯定(%)	否定(%)
教師	肯定的な回答(%)	69.2	29.9	71.3	28.2	73.6	26.2
	否定的な回答(%)	62.1	36.8	63.5	36.0	67.9	31.8

- 「そういう児童がほとんどである」、「そういう児童が2／3ぐらいいる」という肯定的な回答をした教師の指導を受けている学級において、児童が「していない」、「どちらかといえばしていない」という否定的な回答の割合に関するそれぞれのクロス集計結果を見ると、表5のような結果が見られる。

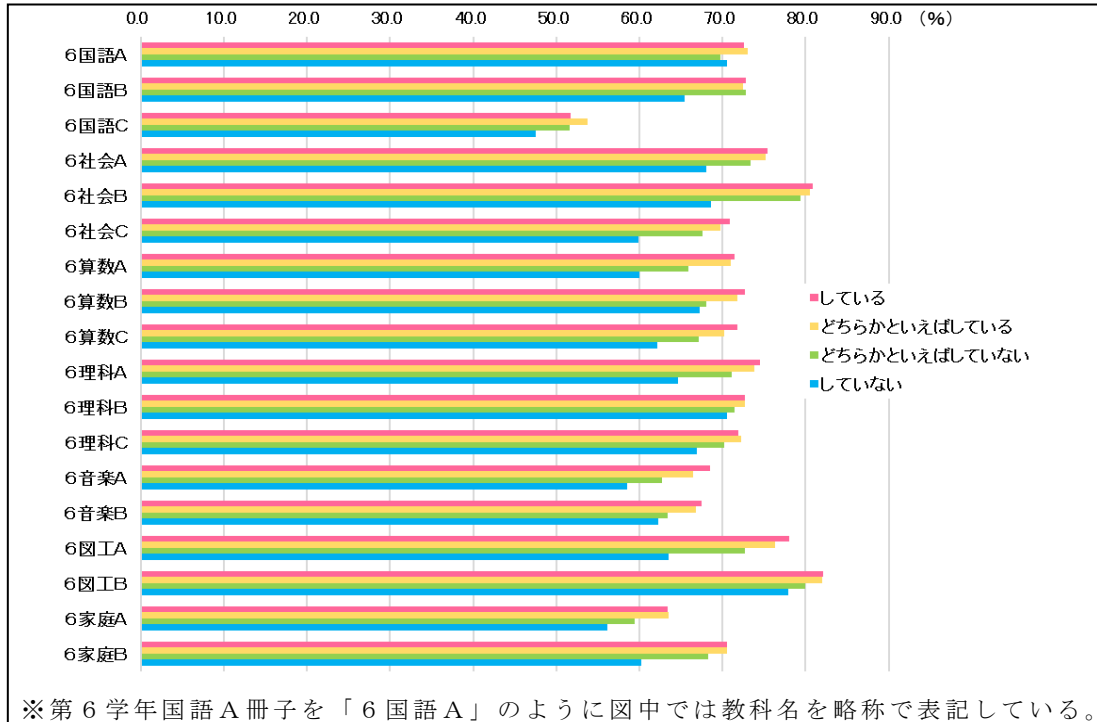
〈表5 肯定的な回答をした教師の指導を受けている学級における児童の否定的な割合〉

	第4学年(%)	第5学年(%)	第6学年(%)
教共(3)と児共(1)のクロス集計結果	11.7	10.8	10.5
教共(5)と児共(4)のクロス集計結果	21.5	20.0	19.6
教共(2)と児共(2)のクロス集計結果	29.9	28.2	26.2

- 表5から、教師の見取りと児童の活動に差異がある学級が見られる。特に、教共(2)と児共(2)のクロス集計結果は教共(3)と児共(1)のクロス集計結果に比べ、全学年において約2割上回っている。

④ 児童質問紙調査とペーパーテスト調査との関係

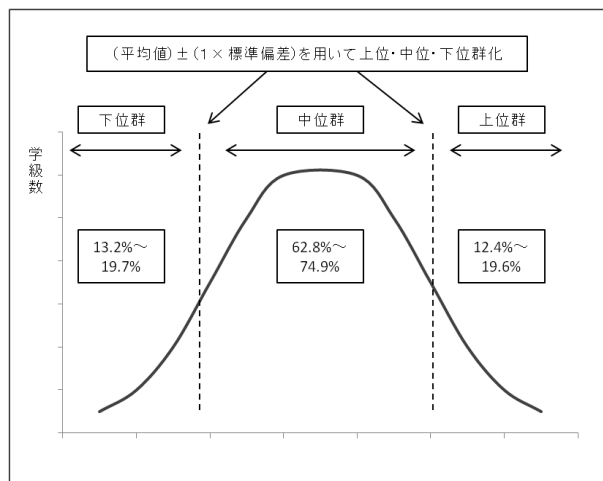
- 児童質問紙調査の各質問項目における選択肢別の平均正答率を見ると、図8のとおり、第6学年の児共(1)では肯定的な回答ほど平均正答率が高い傾向が見られる。また、ほかの学年や質問項目でも、肯定的な回答ほど平均正答率が高い結果が見られる。



＜図8 児共(1)における選択肢別平均正答率の差 (第6学年)＞

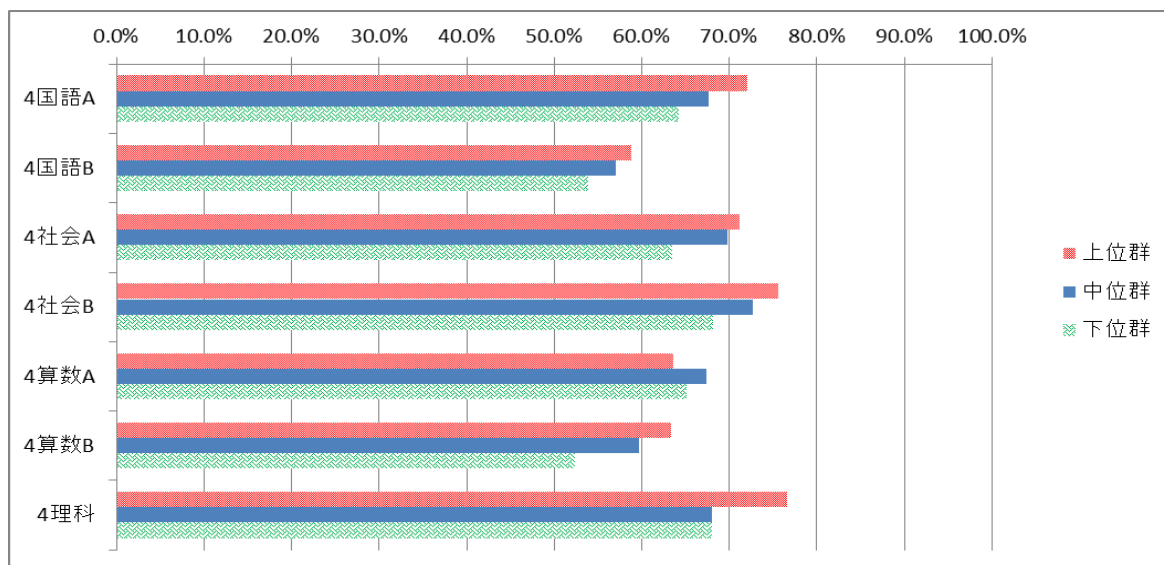
- 個々の児童だけではなく、学級単位でも同様の傾向が見られる。特別活動に関する児童質問紙調査において、「している」、「どちらかといえばしている」という肯定的な回答をしている児童が多い学級と、そうでない学級について、ペーパーテスト調査の冊子ごとの平均正答率の関係性を調べるため、児共(1)から(8)の項目それぞれの学級平均値（児童の回答）を算出し、下図の計算方法（「平均値」±「1×標準偏差」）を用いて、「上位群」「中位群」「下位群」の三つに学級を分類した上で、以下の分析を行っている。

- 特別活動の成果の高い学級と低い学級によるペーパーテスト調査の平均正答率の差異を見るために、児共(1)から(8)の項目それぞれの学級平均値（児童の回答）を算出し、図9の計算方法（「平均値」±「1×標準偏差」）を用いて、「上位群」「中位群」「下位群」の三つに学級を分類している。すなわち、項目ごとの学級平均値によって分類した3群は、それぞれの項目に関する特別活動の成果の「上位」「中位」「下位」学級とみなすことができる。



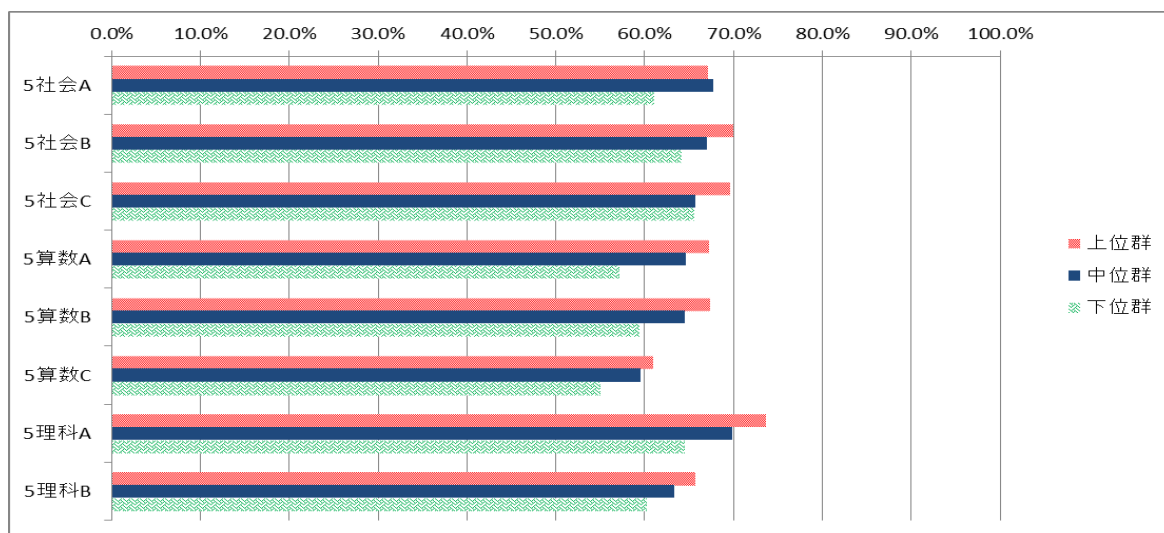
＜図9 児共(1)から(8)のそれぞれの学級平均値＞

- 図9の3群に着目して、国語・社会・算数・理科におけるペーパーテスト調査の平均正答率を分析した結果が以下の図である。ここでは、児共(1)に対する学級群別平均正答率の差を表している。(図10, 図11, 図12)



<図10 児共(1)と学級群別平均正答率の差(第4学年)>

- 第4学年では、算数のA冊子と理科を除いて「している」、「どちらかといえばしている」という肯定的な回答をしている児童が多い学級ほど平均正答率が高い傾向が見られる。



<図11 児共(1)と学級群別平均正答率の差(第5学年)>

- 第5学年では、社会のA冊子を除いて「している」、「どちらかといえばしている」という肯定的な回答をしている児童が多い学級ほど平均正答率が高い傾向が見られる。



〈図 12 児共(1)と学級群別平均正答率の差(第6学年)〉

- 第6学年では、国語のA冊子、算数のA冊子、理科のB・C冊子を除いて「している」、「どちらかといえばしている」という肯定的な回答をしている児童が多い学級ほど平均正答率が高い傾向が見られる。
- なお、ほかの質問については表6のとおりである。

〈表6 学級平均が上位であるほど平均正答率の高いペーパーテスト調査問題冊子の数〉

(該当問題冊子数/総問題冊子数)

	質問項目の内容	第4学年	第5学年	第6学年
児共(1)	みんなで話し合って、なかよく楽しい学級にしている	5 / 7 (71.4%)	7 / 8 (87.5%)	8 / 12 (66.7%)
児共(2)	学級会で、よい学級や友だち関係をつくるため、学級としての目標や方法を決め、実行している	3 / 7 (42.9%)	7 / 8 (87.5%)	11 / 12 (91.7%)
児共(3)	学級活動で、自分の生活や学習の目標や方法を決め、実行している	2 / 7 (28.6%)	8 / 8 (100.0%)	11 / 12 (91.7%)
児共(4)	係活動で、学級に役立つことを工夫し、協力し合って実行している	5 / 7 (71.4%)	8 / 8 (100.0%)	11 / 12 (91.7%)

児共(5)	児童会活動やクラブ活動，学校行事で，他の学年の人と協力し合って実行している	7 / 7 (100.0%)	7 / 8 (87.5%)	11 / 12 (91.7%)
児共(6)	自分の健康や安全について努力することを決めて，生活をしたり給食を食べたりしている	5 / 7 (71.4%)	7 / 8 (87.5%)	9 / 12 (75.0%)
児共(7)	自分の活動をふり返って，思いやりや協力，はたらくことや責任を果たすことの大切さなどを感じている	5 / 7 (71.4%)	6 / 8 (75.0%)	11 / 12 (91.7%)
児共(8)	学級活動，児童会活動，クラブ活動や学校行事で自分から楽しい学級や学校の生活をつくろうとしている	6 / 7 (85.7%)	7 / 8 (87.5%)	11 / 12 (91.7%)

- 特別活動に関する質問紙調査に「している」，「どちらかといえばしている」という肯定的な回答をしている児童が多い学級ほど，ペーパーテスト調査において平均正答率が高い傾向が見られる。

⑤ 教師質問紙調査とペーパーテスト調査との関係

- 児童質問紙調査と同様に、教師質問紙調査において「そういう児童がほとんどである(そうしている)」、「そういう児童が2/3ぐらいいる(どちらかといえばそうしている)」という肯定的及び「そういう児童はほとんどいない(そうしていない)」、「そういう児童は半数以下である(どちらかといえばそうしていない)」という否定的な回答をした教師の指導を受けている学級について、国語・社会・算数・理科におけるペーパーテスト調査の平均正答率の関係を調べている。ここでは、教共(3)に対する肯定的な回答と否定的な回答の平均正答率を表にまとめている。(表7)

〈表7 教共(3)への「肯定的な回答」、「否定的な回答」による平均正答率の差〉

(第4学年)

質問紙番号	回答内容	国語A	国語B	社会A	社会B	算数A	算数B	理科
		平均正答率(%)	平均正答率(%)	平均正答率(%)	平均正答率(%)	平均正答率(%)	平均正答率(%)	平均正答率(%)
教共(3)	肯定的な回答	68.3%	57.1%	69.0%	72.0%	61.0%	59.4%	68.4%
	否定的な回答	61.9%	53.5%	60.4%	74.4%	60.1%	59.5%	70.1%

- 第4学年の7冊子中4冊子で、「そういう児童がほとんどである」、「そういう児童が2/3ぐらいいる」という肯定的な回答をした教師の指導を受けている学級は「そういう児童はほとんどいない」、「そういう児童は半数以下である」という否定的な回答をした教師の指導を受けている学級に比べ平均正答率が高いという結果となっている。

〈表8 教共(3)への「肯定的な回答」、「否定的な回答」による平均正答率の差〉

(第5学年)

質問紙番号	回答内容	社会A	社会B	社会C	算数A	算数B	算数C	理科A	理科B
		平均正答率(%)	平均正答率(%)	平均正答率(%)	平均正答率(%)	平均正答率(%)	平均正答率(%)	平均正答率(%)	平均正答率(%)
教共(3)	肯定的な回答	66.9%	66.9%	66.7%	64.2%	64.8%	59.4%	70.8%	64.4%
	否定的な回答	60.9%	65.4%	65.2%	57.0%	59.4%	49.4%	65.8%	53.4%

〈表9 教共(3)への「肯定的な回答」、「否定的な回答」による平均正答率の差〉

(第6学年)

質問紙番号	回答内容	国語A	国語B	国語C	社会A	社会B	社会C
		平均正答率(%)	平均正答率(%)	平均正答率(%)	平均正答率(%)	平均正答率(%)	平均正答率(%)
教共(3)	肯定的な回答	72.7%	72.7%	53.2%	75.1%	80.6%	71.0%
	否定的な回答	71.8%	69.6%	48.3%	74.6%	75.5%	64.9%
質問紙番号	回答内容	算数A	算数B	算数C	理科A	理科B	理科C
教共(3)	肯定的な回答	71.3%	72.4%	70.9%	66.7%	61.6%	68.5%
	否定的な回答	63.6%	66.5%	67.1%	64.6%	60.0%	61.9%

- 第5・6学年では、全冊子において「そういう児童がほとんどである」、「そうい

う児童が2／3ぐらいいる」という肯定的な回答をした教師の指導を受けている学級は、「そういう児童はほとんどいない」、「そういう児童は半数以下である」という否定的な回答をした教師の指導を受けている学級に比べ平均正答率が高いという結果となっている。

○ なお、ほかの質問については表10のとおりである。

〈表10 肯定的な回答をした教師の指導を受けている学級における平均正答率の高いペーパーテスト調査問題冊子の数〉

		(該当問題冊子数／総問題冊子数)		
	質問項目の内容	第4学年	第5学年	第6学年
教共(1)	児童は、学級生活向上のための問題を見付けられていますか	4／7 (57.1%)	7／8 (87.5%)	11／12 (91.7%)
教共(2)	児童は、学級会の進め方を理解して、話し合いができていますか	7／7 (100.0%)	6／8 (75.0%)	12／12 (100.0%)
教共(3)	児童は、協力してよりよい学級生活や人間関係を築いていますか	4／7 (57.1%)	8／8 (100.0%)	12／12 (100.0%)
教共(4)	児童は、日常生活や学習に取り組む目標を自分で決め、実行していますか	7／7 (100.0%)	8／8 (100.0%)	11／12 (91.7%)
教共(5)	児童は、自分で創意工夫できる係活動を決め、他の児童と協力し合って活動していますか	7／7 (100.0%)	5／8 (62.5%)	12／12 (100.0%)
教共(6)	児童は、自分の健康・安全、食などについて関心をもち、よりよく改善するための方法を決めて努力していますか	4／7 (57.1%)	5／8 (62.5%)	12／12 (100.0%)
教共(7)	児童は、特別活動でしたことなどを振り返って、思いやりや協力、働くことや責任を果たすことの大切さについて実感し、努力することができていますか	4／7 (57.1%)	7／8 (87.5%)	12／12 (100.0%)
教共(8)	児童はよりよい児童会活動やクラブ活動にするために、自分たちで計画し、他の学年の児童と協力して活動していますか	4／7 (57.1%)	4／8 (50.0%)	11／12 (91.7%)
教共(9)	児童は、学校行事に進んで参加し、自分の役割を果たしたり、他の児童と協力して活動したりしていますか	5／7 (71.4%)	7／8 (87.5%)	9／12 (75.0%)
教共(10)	児童は、指示待ちではなく、自分たちでよりよい学級生活を築いていますか	6／7 (85.7%)	7／8 (87.5%)	12／12 (100.0%)
教共(11)	特別活動と道徳との関連を図った授業や活動を行っていますか	3／7 (42.9%)	6／8 (75.0%)	9／12 (75.0%)

○ 全体を通して、「そういう児童がほとんどである(そうしている)」、「そういう児童が2／3ぐらいいる(どちらかといえばそうしている)」と肯定的に回答した教師の指導を受けている学級は、「そういう児童はほとんどいない(そうしていない)」、「そういう児童は半数以下である(どちらかといえばそうしていない)」と否定的な回答をした教師の指導を受けている学級に比べて、ペーパーテスト調査の平均正答率が高いという結果が明らかになった。このことから、特別活動を通じたよりよい生活や人間関係づくりは、受容的な雰囲気や学校生活への目標を達成しようとする意欲や態度を醸成し、教科の学力と相互に関係していると考えられる。

2. 今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点

(1) 児童の自発的、自治的な活動を効果的に展開する工夫

教師質問紙調査「児童は、指示待ちではなく、自分たちでよりよい学級生活を築いていますか」という内容において、ほかの質問よりも肯定的な回答の割合が低くなっており、課題があると考えられる。

児童の自発的、自治的な活動を助長する指導に当たっては、「教師の適切な指導」の重要性を理解するとともに、発達の段階により参画の仕方・役割などが変化することに配慮した指導などの工夫が大切である。

学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合いながら、主体的に参画しようとする態度を育成するために、計画委員会での活動計画の作成など事前の活動の充実や発達の段階に即した教師の指導・助言の工夫など、自らの手でよりよい学級や友達関係をつくろうという児童の意識を高めることが大切である。

(2) 道徳的実践の指導の充実

教師質問紙調査「特別活動と道徳との関連を図った授業や活動を行っていますか」という内容において、肯定的な回答の割合が低くなっている。

特別活動の特質を十分に踏まえた上で、各活動や学校行事の目標や学校の道徳教育の重点内容項目に関わる内容を意識して指導するなど、道徳的実践のための重要な学習活動の場として特別活動の指導の充実が必要である。

道徳的諸価値の理解に基づき、自己の生き方について考えを深めることができるように、集団活動や体験活動などを通して、気付いたことなどを振り返り、まとめたり、発表し合ったりするなどの活動を充実する必要がある。

(3) よりよい生活や人間関係をつくる全校的指導体制・組織体制の充実

今回の調査結果から、学級をはじめとして様々な集団において、相手との関わりを大事にしながらか、協力し合ってよりよい人間関係を築き、学級・学校生活を送ろうという児童の意識は高いことがうかがわれる。

今後も、児童自らが学級や学校生活の向上を目指した活動目標をつくったり、役割を分担し協力して実践したりしながら、よりよい生活や人間関係の形成に努めていくことが求められる。

一方、「よりよい学級生活や人間関係づくり」に係る教師質問紙調査と児童質問紙調査のクロス集計結果を見ると、教師が肯定的な回答をしても児童は否定的な回答をしているなど教師の見取りと児童の活動に差異がある学級が見られる。特によりよい学級生活を築くための創意工夫に関連するクロス集計結果では、ほかのクロス集計結果に比べ、差異が大きく見られる。

個々の教師が指導の工夫・改善に取り組むだけでなく、特別活動の指導に関する教師の共通理解と協力体制の確立など、一層の全校的指導体制・組織体制の充実が求められる。

(4) 特別活動における、各教科等の指導成果を支えるような人間関係づくりに関わる指導の充実

特別活動に関する児童・教師質問紙調査において、肯定的な回答をしている児童（回答をした教師の指導を受けている児童）が多い学級ほど、ペーパーテスト調査において平均正答率が高い傾向が見られる。このことから、特別活動を通じたよりよい学級生活や人間関係づくりは、受容的な雰囲気や学校生活への目標を達成しようとする意欲や態度を醸成し、学力と相互に関係していると考えられる。

今後も、学級活動をはじめとして話し合い活動を中核に据えて、互いのよさや可能性を発揮するような望ましい集団活動を展開し、特別活動の目標の実現を図るとともに、特別活動の指導と学級経営、特別活動の指導と各教科等における協働的な学びを支える人間関係づくりなど更なる指導の充実を図る必要がある。